

かわさき区の宝物シート

宝物No.
25-5

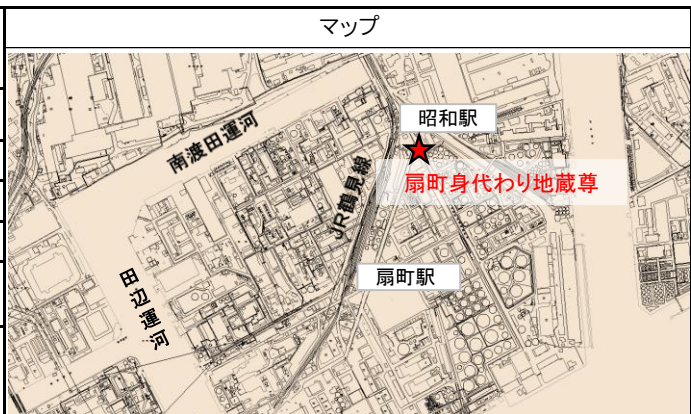
おうぎまちみがわりじぞうそん
扇町身代わり地蔵尊



エリア	田島地区	シーズン	通年
	扇町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区扇町12
問い合わせ	—
TEL	—
FAX	—
E-mail	—
URL	—
交通	JR鶴見線昭和駅より徒歩2分



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号（川崎市指令ま計第159号）

基礎情報

- 扇町身代わり地蔵尊とは、昭和20年(1945)の川崎大空襲の際の犠牲者を供養した地蔵尊である。特に昭和45年(1970)に発見された8名の犠牲者をきっかけに建立された。
- 空襲があったのが昭和20年(1945)7月25日から26日未明にかけてだったため、毎年7月25日には供養祭が開催されている。

由来・エピソード

- 終戦間際の昭和20年(1945)7月25日及び26日未明まで、アメリカ軍は京浜地区への激しい空爆を行い、川崎臨海部の工業地帯も空襲を受けた。当時、この地にあった日本油化株式会社の作業員と住民は、激しい空襲を避けるために、現在の身代わり地蔵付近にあった地下道に避難した。この地下道には、65名くらいの人々が避難した。しかし、地下道は空襲に耐えられず崩れてしまい、避難した人々は生き埋めになってしまった。一部の人は救出されたが、空襲後に36体の遺体が発掘された。
- 終戦後は、地下道があったところを含め工場は米軍に接収された。このため、残りの遺体は、終戦後数十年間発見されることがなかった。その後米軍基地が返還され、そこに新たに工場ができることになった。その工場の建設中である昭和45年(1970)春に、この付近でケーブルの新設工事を行ったところ、排水ポンプが急に動かなくなり、その原因が人間の頭髪が排水ポンプの吸水口に付着していたことであった。このため、建設工事を延長し、発掘調査作業を行った。そして、その年の12月までの間に8体の遺体が発見された。地元紙などをお願いして遺族を探したが、見つからなかった。このため、当町内会が中心になって供養することになり、身代わり地蔵を建立することになった。

補足・その他

- 供養や身代わり地蔵の建立にあたっては、地元町内会だけでなく周辺の企業からも寄付や協力があつた。
- 現在も、身代わり地蔵の管理については、地元町内会、周辺の企業で行っている。

関連シート

